

# 心理・福祉分野に強みを持つ

## 養護教諭の養成・育成プログラム開発事業

### 成果報告

NTTデータ経営研究所

# 報告内容

1. 事業の実施背景
2. 事業の実施内容
3. 実態調査の概要
4. 策定の基本方針
5. 成果物の概要

# 1. 事業の実施背景



## 多様化・複雑化する現代的健康課題

- メンタルヘルス: いじめ、不登校、自傷行為
- 社会環境: 児童虐待、ヤングケアラー、貧困
- リスク行動: SNSトラブル、オーバードーズ 等

- 令和6年8月の中央教育審議会答申において「教師や学校医等とも連携しながら、きめ細かく支援する養護教諭の重要性は年々増加」していること、またその資質向上の必要性が示された。
- 養護教諭は保健室において健康面の指導のみならず、カウンセリングや福祉への接続など生徒指導面でも大きな役割を担う。
- 複雑な問題の解決には、現在の養成課程での学びに加え、**心理・福祉面に専門性**を持つ人材の育成が求められる。



心理・福祉分野に強みを持つ養護教諭を養成するための

**養成大学向け養成プログラム** や **養護教諭向け研修プログラム** を開発する

## 2.事業の実施内容

- 有識者委員会を中心とした「養護教諭が身に付けるべき心理・福祉の資質能力一覧」  
「養成大学向け養成プログラム」の策定
- 委託先大学による「現職者向け研修プログラム」の開発



1.有識者委員会開催

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

2.心理・福祉の資質能力一覧策定

3.養成大学を対象とした実態調査

ヒアリング調査

4.養成大学向け養成プログラム開発

5.現職者向け研修プログラム開発

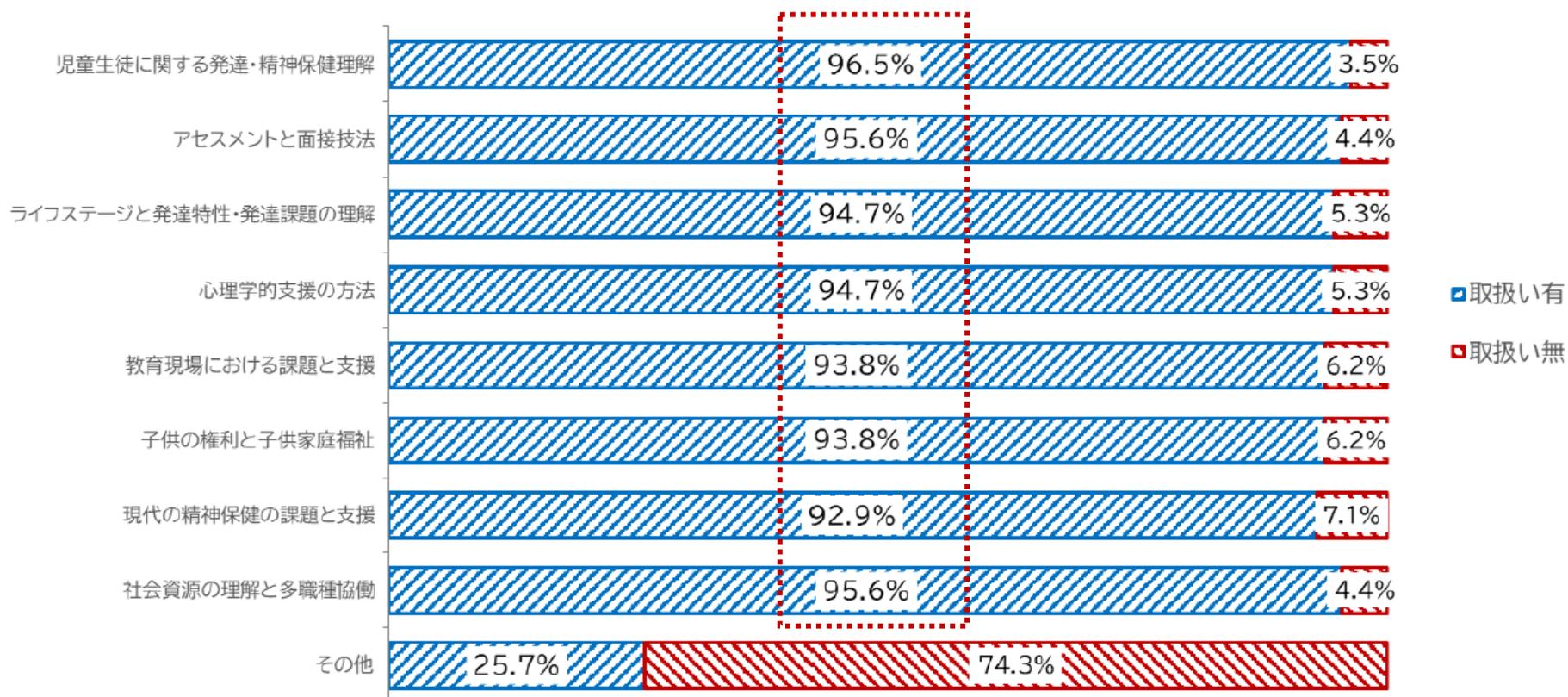
### 3. 実態調査の概要

項目	内容																				
調査目的	全国の養護教諭養成課程を有する大学のカリキュラム構成や、心理・福祉に関する課題に対応するための教育状況の実態を把握すること																				
調査対象	全国の養護教諭養成課程を有する大学（大学・短期大学・大学院）																				
調査期間	令和7（2025）年9月1日～令和7（2025）年10月10日（回答締切り）																				
調査項目	養護教諭養成課程における <ul style="list-style-type: none"><li>・ 開講科目数</li><li>・ 科目の内容</li><li>・ 授業形態</li><li>・ 担当教員の情報</li><li>・ 心理・福祉分野の内容の取扱い</li></ul>																				
回収結果	<table border="1"><thead><tr><th>免許状の種類</th><th>対象数</th><th>回収数</th><th>回収率</th></tr></thead><tbody><tr><td>一種免許状</td><td>145</td><td>118</td><td>81.4%</td></tr><tr><td>二種免許状</td><td>13</td><td>11</td><td>84.6%</td></tr><tr><td>専修免許状</td><td>70</td><td>54</td><td>77.1%</td></tr><tr><td>合計</td><td>228</td><td>183</td><td>80.3%</td></tr></tbody></table>	免許状の種類	対象数	回収数	回収率	一種免許状	145	118	81.4%	二種免許状	13	11	84.6%	専修免許状	70	54	77.1%	合計	228	183	80.3%
免許状の種類	対象数	回収数	回収率																		
一種免許状	145	118	81.4%																		
二種免許状	13	11	84.6%																		
専修免許状	70	54	77.1%																		
合計	228	183	80.3%																		

# 調査結果①：心理・福祉分野の内容の取扱い状況

● **約9割** の養成大学で心理・福祉分野の内容が取扱われている

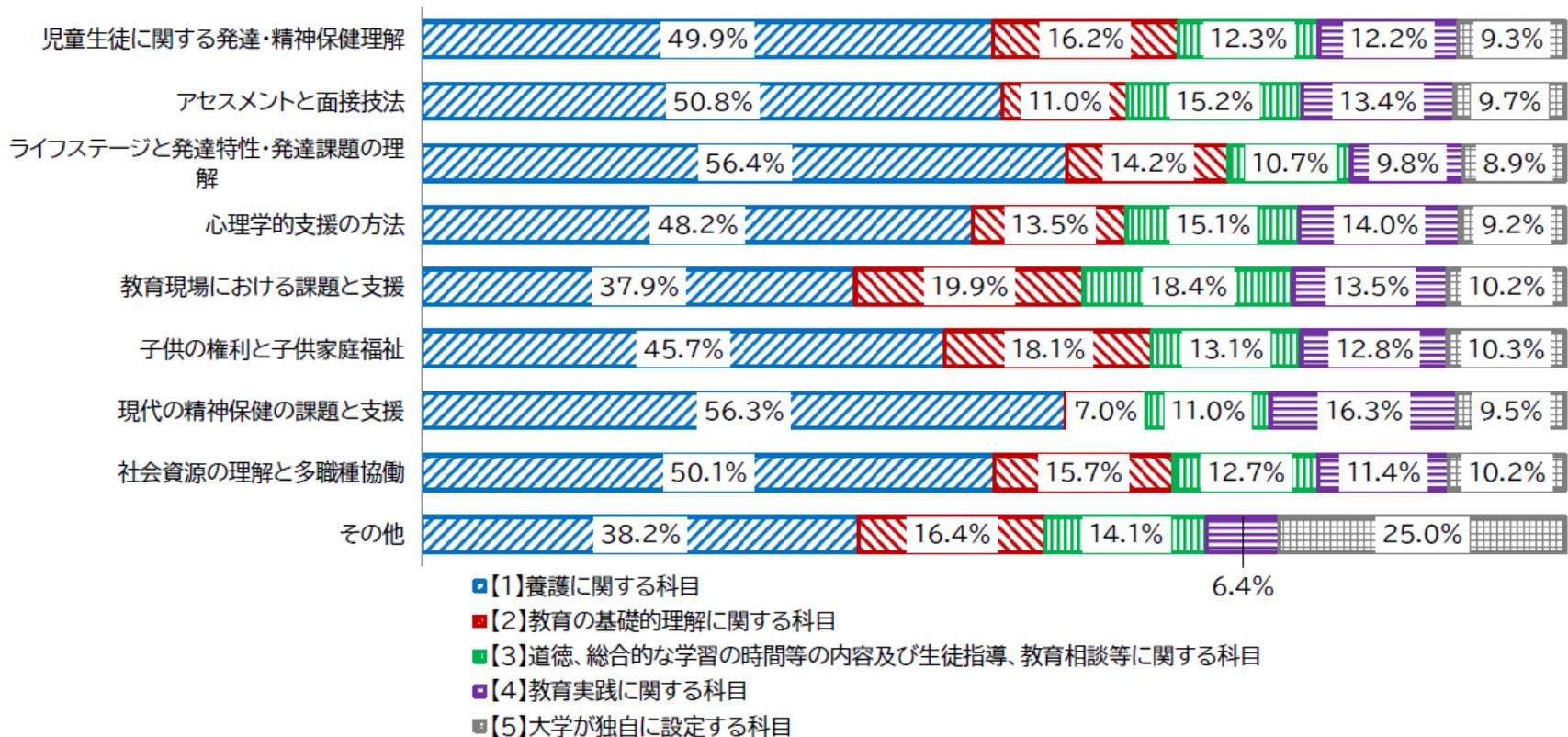
心理・福祉分野の内容ごとの開講率（%）（一種免許状）



# 調査結果②：心理・福祉分野の内容を取扱っている科目

- 「養護に関する科目」での取扱いが多いが、「教育の基礎的理解に関する科目」等、全般にわたって分散している

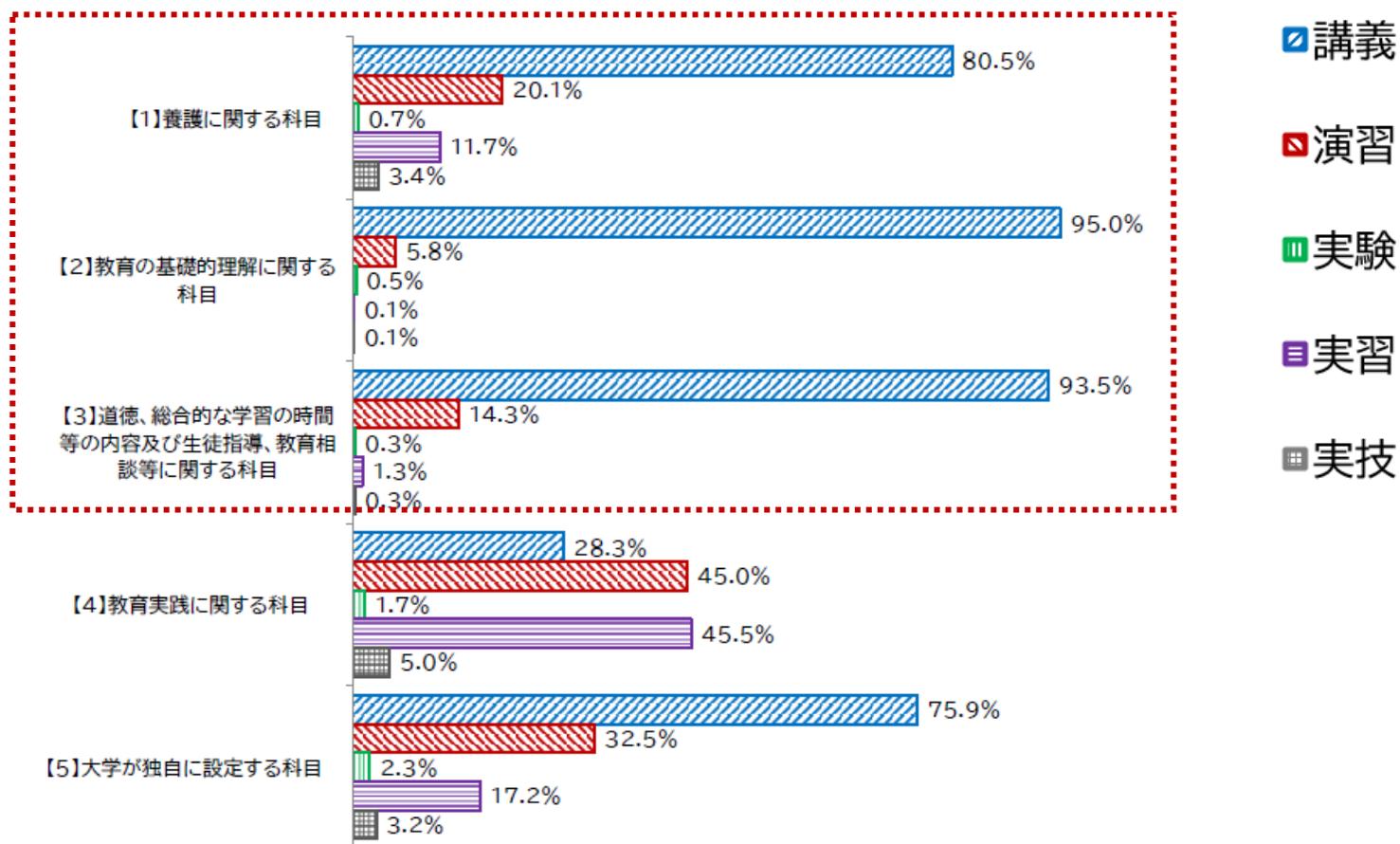
一種課程における心理・福祉の内容が取り扱われている科目の割合（％）



# 調査結果③：授業形態

- 心理・福祉の内容を含む科目は講義形式の割合が高い

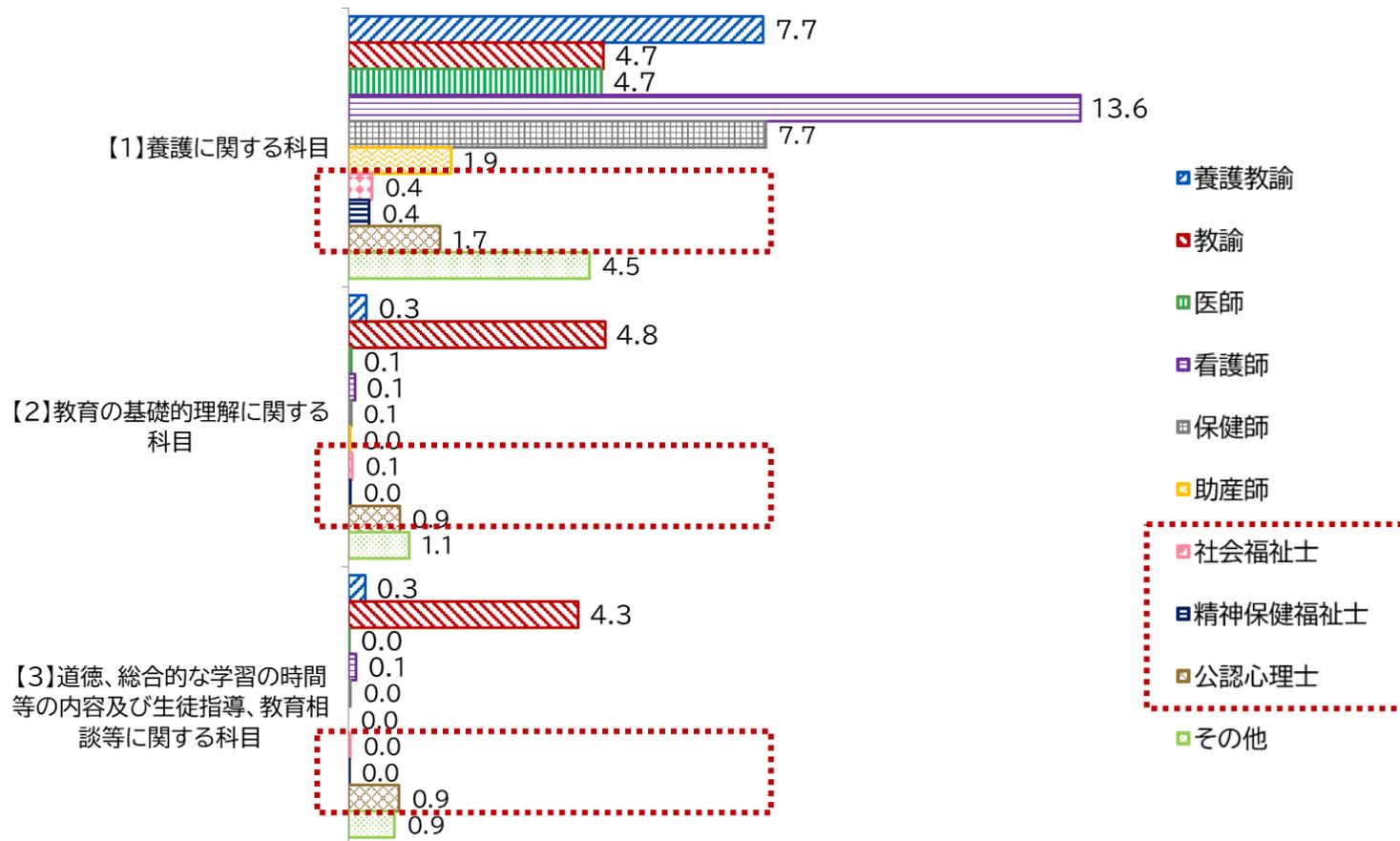
授業形態ごとの1大学当たりの平均科目数の割合（%）



# 調査結果④：教授する教員の専門性

- 科目を教授している教員のうち、公認心理師は約2割、社会福祉士及び精神保健福祉士は1割以下であった

一種課程における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数（科目）



# 養護教諭にとっての「心理・福祉」分野の体系化

養護教諭が身に付けるべき心理・福祉の資質能力の策定とプログラムの開発

## 実態調査

実態1：心理・福祉の内容自体は取り扱われているものの、**各科目に分散される形で含まれている**

実態2：**講義が中心**であり、演習が少ない

## 解決策

養護教諭独自の健康相談活動等の土台の上に、**心理・福祉分野の視点を付加するためのプログラム**を開発

### 1. 心理・福祉共通：

例えば、BPSモデル（生物・心理・社会）による多面的アセスメント等

### 2. 心理：

心身相関の理解とトラウマへの配慮

### 3. 福祉：

権利擁護と社会資源へのコーディネート

## 成果物（活用方法）

### 資質能力一覧

- ✓ 養護教諭にとって必要な心理・福祉分野の専門性を検討する際の基礎資料

### 養成大学向け養成プログラム

- ✓ 科目の新設
- ✓ 既存科目への組み込み
- ✓ 授業内容の見直し

### 現職者向け研修プログラム

- ✓ 教育委員会等による現職者向け研修での活用

# 複雑化する課題への「気付き」「関わり」「つながぎ」を強化する

保健室を起点に **気付き・見立て・関わり・つながぎ**を担う**コーディネーター**としての役割に、**心理・福祉の視点**を取り入れ、現代的健康課題への対応力を強化

## 気付き

学校生活における「違和感」の早期発見

## 見立て

例えば、BPSモデルを用いた情報収集  
(見立て、関わり、つなぐための情報)

## 関わり

境界を保ち適切に関わる

## つながぎ

専門家（スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、医療機関）へ連携するための判断と調整

# 成果物①：養護教諭に求められる心理・福祉分野の資質能力一覧

## ■ 策定の狙い

- 現代的な健康課題に対応するために養護教諭に必要な心理・福祉分野の専門性について、修得すべき資質能力を「養護教諭に求められる心理・福祉分野の資質能力」として整理。
- 養成段階のみならず、現職の資質能力向上やキャリア形成にも参照される資料として位置付け。

## ■ 策定の基本方針

- 心理職・福祉職の専門性をそのまま求めるのではなく、養護教諭が持つ視点や専門性、学校現場の実態に即した実用性を重視。
- SC・SSW等の専門職に、養護教諭が連絡調整する役（コーディネーター）として機能するために必要な能力に焦点化。
- 養護教諭本来の業務範囲（健康相談及び保健指導、保健室経営等）を基盤とし、必要最低限の要素に絞り込んで定義。

養護教諭に求められる心理・福祉分野の資質能力を **心理福祉共通・心理・福祉** の3つに区分し、各区分の中で **全体目標・一般目標・到達目標** の3階層に体系化

共通領域	全体目標（抜粋）	一般目標（抜粋）	到達目標（抜粋）
	<b>児童生徒等の精神保健に関する理解と支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 主要精神疾患の理解と早期の気付き</li> <li>② 発達障害の理解と支援</li> <li>③ 現代的な精神保健の課題と支援</li> </ul>	保健室で観察することが可能な主要な精神疾患の兆候の現れ方を理解
	<b>健康相談及び心理社会的アセスメントと連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 健康相談における基本的態度</li> <li>⑤ 心理社会的アセスメントと情報共有</li> </ul>	受容、傾聴、共感等の基礎的な面接の技法及び児童生徒等に安心感をもたらす関わり方を理解
<b>心理領域</b>			
	<b>心理社会的・認知的発達及び心身相関に基づく見立てと配慮</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 心理社会的発達及び認知の発達と逆境体験</li> <li>② 心身相関の理解</li> </ul>	乳幼児期から思春期に至る心理社会的及び認知の発達の課題の理解
	<b>健康相談及び保健指導における心理的支援の基礎と関係調整</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 心理的支援の姿勢や基本技法</li> <li>④ 関係の枠組みと境界の理解</li> </ul>	健康相談及び保健指導における心理的支援の基本的態度を理解
<b>福祉領域</b>			
	<b>権利擁護及び福祉的視点に基づくアセスメントと支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 権利擁護に基づく支援</li> <li>② 福祉的アセスメントと校内外連携に基づく支援</li> </ul>	児童の権利に関する条約の内容と学校における配慮や支援を理解
	<b>福祉制度や社会資源の活用及び多職種連携のための設計</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 福祉制度や社会資源の理解と活用</li> <li>④ 支援をつなぐ援助技術と多職種連携</li> </ul>	児童・家庭福祉に関する主要制度の概要及び対象を理解

# 成果物②：養成大学向け養成プログラム

## 資質能力一覧に基づき、3つの科目案を策定

### 心理福祉共通 科目

#### 養護教諭のための 心理支援・福祉連携基礎

精神保健の理解を基盤に  
心の健康課題の兆候を読み解き、  
支援と連携へつなぐ

#### 科目の概要

- 保健室を起点に、精神保健や発達障害の理解とBPSモデルに基づく多面的なアセスメントにより、心の健康課題の兆候に早期に気づき、妥当な見立てを行う力を養う。
- 基礎的な面接技法（受容・傾聴・共感等）を活用した支援の在り方を学ぶとともに、法令・倫理を踏まえた記録・情報共有と校内外連携の基本を修得する。

### 心理 科目

#### 養護教諭のための 心理支援論

発達理解を基盤に  
心身の相関を読み解き、  
適切な関係性を築く

#### 科目の概要

- 保健室における児童生徒等の心理的サインや心身相関を的確に理解・見立てた上で、基礎的な心理的支援の態度や技法、主体的な問題解決を促す関わりを学ぶ。
- 保健室の特性を踏まえた心理的距離の保持や役割の限界、校内外連携を理解し、専門職としての実践力を形成する。

### 福祉 科目

#### 養護教諭のための 学校福祉論

権利擁護を基盤に  
生活環境を読み解き、  
多職種協働を推進する

#### 科目の概要

- 児童の権利や家族システム理論を基盤に、生活背景にある福祉的課題を的確にアセスメントし、心身の健康と生活環境を結び付けて捉える視座を養う。
- 専門機関や多職種と効果的に協働・連携するための基礎知識と倫理的配慮を修得する。

# 養成大学向け養成プログラムの構成

養成大学が心理・福祉分野に関する科目の新設や、既存科目への組み入れができるよう **心理福祉共通・心理・福祉分野** の3科目の **実施例（シラバス案）** を策定

項目名	記載内容
科目名	科目名称の例
科目概要	科目全体で学ぶ内容と養護教諭教職課程における位置付けを示した全体像の例
科目策定の背景	なぜ今この科目を学ぶ必要があるのかという社会的要請と課題意識の例
科目の目的 (ねらい)	科目の履修を通じて、最終的にどのような資質・能力を持った養護教諭を育成することを目指すのかという教育のゴールの例
養成する人材像	科目を修得した結果、何ができるようになるかという能力の例
授業全体の内容	科目の中で取り扱う具体的な学修テーマの構成の例
到達目標	授業終了時に学生が身に付けておくべき具体的な知識や理解の状態を定義した評価基準の例
授業の例	具体的な講義テーマ、キーワード、演習内容の例

# 成果物③：養護教諭向け研修プログラム

## 心理福祉共通

### 養護教諭のための 心理支援・福祉連携基礎

養護教諭の専門性、保健室の機能を生かした、現代的健康課題への対応力を向上させる

#### 研修の概要

#### 第1部：基礎理論

- ・子供たちの心身に関わる現代的課題
- ・保健室の機能と養護教諭の専門性
- ・養護教諭が行う健康相談におけるプロセス
- ・多職種他機関連携における養護教諭の役割

#### 第2部：演習・事例

- ・心理・福祉の専門性が必要とされる  
小学校6年生の事例
- ・設問、解説

#### 第3部：まとめと振り返り

- ・養護教諭・他の教職員が留意したい視点
- ・まとめ・今後の学びのポイント

## 心理

### 養護教諭のための 心理支援基礎・発展

現代的健康問題や潜在的な心の傷を的確に捉える基礎知識を習得し、トラウマインフォームドケアの姿勢に基づく実践的な支援能力を確立する

#### 研修の概要

#### 第1部：「心の病気」の基礎知識

- ・思春期・青年期に現れやすい「心の病気」
- ・問題となっている現代的課題
- ・対応時に気を付けること

#### 第2部：心の問題の捉え方

- ・背景にある子供の「心の環境」をみる
- ・トラウマについて
- ・事例を通して考えてみよう

#### 第3部：どの子にも安全で安心できる環境を

- ・トラウマインフォームドケア（TIC）
- ・TICの姿勢を生かした保健室対応
- ・ロールプレイ

## 福祉

### 養護教諭のための 福祉連携基礎・発展

表出する心身の不調から福祉的真因を早期に特定し、多職種連携によって包括的支援を実行する能力を確立する

#### 研修の概要

#### 第1部：学校における福祉的視点の必要性

- ・学校における福祉的視点の必要性
- ・子どもを真ん中に置いた子ども支援（権利擁護）の必要性

#### 第2部：生活課題の理解・保健室の来室時に「気付く」

- ・全ての児童生徒等を対象にして「気付く」
- ・情報収集をして「気付く」

#### 第3部：校内支援と多職種連携

- ・保健室の校内でのケース会議開催と校内支援
- ・多職種連携による包括的支援

#### 第4部：社会福祉の理念の理解・まとめ

- ・権利擁護の理念と法令や政策を基盤にした支援
- ・養護教諭の役割と発揮すべき専門性

# 養護教諭向け研修プログラムの構成

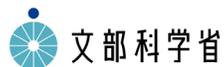
都道府県教育委員会等が、現職者向け研修で活用できるよう心理福祉共通・心理・福祉の3つの研修プログラムの **講義スライド** と **解説ノート** を作成

## 3つの研修プログラム

養護教諭のための  
心理支援・福祉連携基礎



養護教諭のための  
心理支援の基礎・発展



養護教諭のための  
福祉支援と多職種連携の  
基礎・発展



## 講義スライドと解説ノート（例）

### 保健室の機能

#### ● 保健室の機能

- ①健康診断、発育測定などを行う場としての機能
- ②個人及び集団の健康課題を把握する場としての機能
- ③健康情報センター的機能
- ④健康教育推進のための調査及び資料等の活用・保管の場としての機能
- ⑤疾病や感染症の予防と管理を行う場としての機能
- ⑥児童生徒が委員会活動等を行う場としての機能
- ⑦心身の健康に問題のある児童生徒等の保健指導、**健康相談**を行う場としての機能
- ⑧けがや病気などの児童生徒等に救急処置の場としての機能
- ⑨組織活動のセンター的役割

1) 養護教諭の専門性と保健室の機能を生かした保健室経営の進め方(財団法人日本学校保健会 (2016) より抜粋)

#### 【スライドのねらい・位置づけ】

学校保健安全法や関連指針に基づく「保健室の9つの機能」を確認するスライドです。養護教諭として押さえるべき基本機能であり、本研修のテーマである「健康相談」がその中の一つ（機能⑦）に位置づけられていることを確認します。

#### 【キーマッセージ（1文）】

保健室には健康診断や救急処置だけでなく、「心身の健康相談」や「組織活動のセンター」としての重要な機能があり、これらを統合的に活用することが求められます。

#### 【説明の流れと話すポイント】

- ①日本学校保健会が定義する9つの機能を提示する。
- ②特に本研修と関連の深い⑦「**健康相談を行う場**」としての機能、および多様な情報が集まる③「**健康情報センター的機能**」、⑨「**組織活動のセンター的役割**」について強調する。③これらを理解した上で、次スライドの「独自性」へつなげる。

#### 【前後スライドとのつなぎ・時間配分】

「では、このような機能を持つ保健室には、具体的にどのような独自性があるのでしょうか」と問ひかけ、次のスライドへ。

（所要時間：1分程度）